

東海第二原発 過酷事故想定での避難計画 日立市民 19万人の 避難先は福島県???



福島県 JR 富岡駅（常磐線）

放射線量が高く復旧出来ません

東海第二原発 再稼働ストップ 日立市民の会

ニュース NO.2
2015年2月

連絡先

荒川照明
〒316-0021
日立市台原町 2-10-10
電話 090-9845-7019

再稼働ストップのため
皆さんの入会を歓迎します

福島県に避難は、日立市19万人と常陸太田市（5万人）、高萩市（3万人）でも計画されています。

県は昨年8月6日、東海第二原発の過酷事故を想定し、30km圏内14市町村96万人の広域避難計画（案）を発表しました。目的は、放射線の被ばくを避けるため、5km圏内は一斉避難、5～30km圏内は自宅屋内避難で、放射線量により地域ごとに順次避難ということです。日立市民19万人は、自家用車やバス等で各インターチェンジより常磐高速道（一部は349号道）に入り福島県に避難ということです。今年2月6日の県対策検討部会で、3月中に県として決定し、避難計画を市町村で本格的スタートとしています。

日立市でも現在避難計画が検討されています。4年前に大地震と津波を体験した市民として、本当に避難が可能でしょうか。常磐道で事故、渋滞、損壊が起きれば避難出来ません。その他様々な問題があります。

原発を再稼働しないこと

日立市は福島と東海第二の原発に挟まれ、さらに太平洋と阿武隈高地に挟まれた街です。誰が考えても無茶な避難計画です。机上の避難計画を作り、東海第二原発の再稼働の理由付けにされたらたまりません。

避難計画は実行されないことが一番良いことで、それは、東海第二原発を再稼働しないことに尽きます。

万が一、福島に避難できても、放射能で汚染されている日立市には帰還出来ません。

また、避難先は公共施設や体育館等で、避難一人当たり2㎡（1m×2m）、畳1畳+10cmの面積で避難生活すること等も計画されています。これは福島県の悲劇を私たちが繰り返すことです。

避難するのは市民です。本計画作成を、県・市のスケジュールで進めるのではなく、市民の意見や判断を十分聞き、市民が納得のいく形で進めることが求められます。